

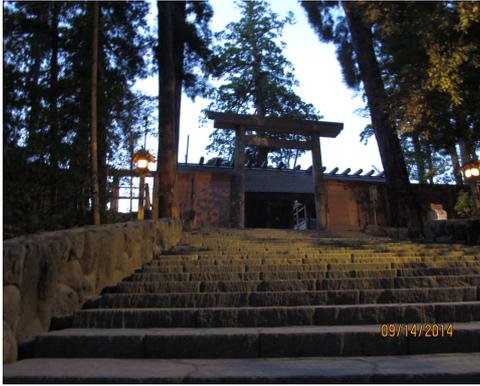
今回、第7号は田中が担当します。

最近、気温も下がり過ごしやすい季節となり、清々しい青空の日に9月の連休中、車で伊勢「神宮(総氏神)」に参拝してきました。普段の参拝は、近くの「神社(氏神様)」に行っていますが、「神宮(総氏神)」には、何年もお参りしていないことと、2013年に20年に一度の式年遷宮を迎え新鮮な節目と、家族が健康でいられる感謝のお礼を伝えに、お参りました。

最初に、外宮「豊受大神宮」から参拝、内宮「天照大御神」の食事をお世話されていた方です。遅めに着いたので日が暮れだし慌てて内宮に移動しました。結局、御正殿に到着後、扉が閉まるのを見届け、帰り道に残っていたのは私たち家族だけでした。

人がいない静かな内宮の暗い夜道は、川の音とともに神秘的でした。

お参りの時のお賽銭ですが、お金を入れて願うのではないみたいです。「賽」という字は、神社では「報賽」「奉賽」という言葉があり、お賽銭は「神様から頂いた幸福や導きに、感謝の気持ちを捧げるためにお供えするもの」の意味なのです。感謝の気持ちをする事で、また良い導きをしてくれるのですね。人の幸せを願うのは、良いみたいです。私の場合は、白い封筒に名前住所を書きお金を入れて、お供えます。失礼のない形なのですが、お供えは少額で、ごめんなさい(笑)。



風景=「天照大御神」御正殿



風景=「豊受大神宮」正宮

IS DESIGN 創業物語 その2

当時、創業2年目に中国事務所を立ち上げます。中国の合資会社の名前は、厦門科樂普科技有限公司(アモイコラボカギ)です。

名前の由来は、グローバルに展開し、多くの人、会社とのコラボレーションを目的としましたので、『コラボ』と言う名前に決定しました。

当時、視察段階では事務所に入る建物は建設中で、福建省 厦門(アモイ)は発展中でしたので道路も工事が多く、環境は不安定でしたが活気は満ち溢れ、中国に行くと元気を貰っていました。

当時日本は厳しい経済状態で活気も無く何時も疲れていたように思います。

事務所の場所は、中国政府の創業施設です。広さは150平米で、待遇は、2年間は家賃が無償、3年目から半金、4年目からは全額、中国の税金3年は納付無しでした。その上、助成金まで頂きました。助成金だけ貰って直ぐに辞める会社もありました。当時の中国は経済が良くなってきた時で、外国に留学していた優秀な人材を呼び戻すために高待遇な条件を提示していたと思います。施設の中には、食堂のビルやマンションが併設されていたので、中国社長の单身用と私たちの滞在用の2部屋借りることにしました。

8畳ほどの部屋が2つとシャワー、トイレ付き、家具・ベッド・エアコンなども備え付けられていました。

恵まれた条件の中で中国事務所はスタートしますが、ここからが試練の始まりになります。

つづく



写真=建設中だった開発特区模型



風景=コラボ社内

中国事務所記事 その1 <中愁節(ちゅうしゅうせつ)の行事>

みなさま、始めまして、中国事務所で日本語通訳を担当しています。蔡燕萍(サイイェンピン)と申します。よろしくお願いたします。 中国記事1号として中愁節(旧暦8月15日)について、お話しします。

中国の伝統的な祭日として、その日に月餅を食べることは中国の全国的な習慣となっています。福建省 廈門(アモイ)の中愁節の伝統行事は、300年前オランダ人に侵略された台湾を奪還した中国の民族的英雄「鄭成功將軍」鄭成功(ていせいこう)の率いる軍隊、鄭成功の軍師—洪さんという人が、兵士の望郷の思いを和らげるために考え出した「博餅」(ボービン大会)というサイコロ賭けゲームです。ちなみに、鄭成功(ていせいこう)將軍の母は日本人です。生まれも日本、平戸千里ヶ浜の松の木の下で出産したので、日本名で福松と名付けられたそうです。

「ボービン大会」で、賭けるのは「月餅」です。中国名は「会餅」と呼び、全部で63個必要です。ルールは、参加者が順番に6個のサイコロを投げ、出た目のランクで勝負し、「月餅の数」が決まります。出た目のランクは、昔中国で行われていた「官吏登用試験(公務員試験)・科挙制度(貴族の階級)」六段階の、ランクに当てはめます。ナンバーワンは状元、次は榜眼(対堂)、探花(三紅)、進士(四進)、舉人(二舉)、秀才(一秀)の順になります。[4]の数字が、良いみたいです。

現在でも廈門(アモイ)では、盛んに行われ、アモイのマクドナルドもイベントしています。現代は、賭けるのは月餅だけではなく日常用品を景品にして、ランク事に当てはめ、貰います。今年は、中国社内で「ボービン大会」しました。私が、状元を出し優勝しました。来年も好運ですね(笑)。



「ボービン大会」のサイコロ



六段階のランク



状元で勝った景品です

<蔡燕萍(サイイェンピン)の夕食>

私の日常生活では姉と妹と私で、ビーフステーキを食べに行きました。お店はバスに乗って15分で着きます。お店の名前は中国語で「澳式牛排」といいます。最近の中国は、食べ物が以前と比べると多様化しています。お肉料理メインのお店に来たものの、本当はビーフステーキよりも好きな食べ物は、チャーメン(中国麺)、パン、ポップコーン、アイスクリーム、コーンスープ、果物なのです。子供っぽい食べ物ばかりですね(笑)。そして、この店の料理で印象的なのはコーンスープでした。得に、私は粉ミルクを入れて飲んだら、すごく美味しく、その他料理が目につかない程、早く飲んでしまいました。粉ミルク入れるコーンスープに、はまりそうです(笑)。

株式会社 IS DESIGN アイエス通信編集部 発行日 2014年10月03日 発行人 池田英樹

〒581-0816 大阪府八尾市佐堂町2丁目3-15 久宝ビル301 TEL:072-929-1336 FAX:072-929-1338

Email:h.ikedai@is-design.net URL: http://www.is-design.net

Copyright(c)2014 株式会社 IS DESIGN all rights reserved